



9月も中旬を過ぎると、日が暮れるのが早く感じられるようになりましたね。

北海道のサッカーシーズンも1ヶ月とちょっととなりました。各リーグ戦も終盤へ、また全国大会予選も入ってきて、もうひとがんばりですね。

さて、前回に引き続き全国大会に行かれた方のレポートを一部紹介します。



研修会名 : 2017年度1級審判員認定1次審査合格者研修会 荒上修人
日時 : 2017年7月20日(木)～7月22日(土) 会場: J-GREEN堺

・講義の内容

上川氏より、現在の1級審判員の人数、各カテゴリーの人数についてお話がありました。1級審判になってJリーグ担当になるまでの最短はいままで4年とのことでした。

柏原氏より、まずはフィジカルが大事だというお言葉がありました。フィジカルが弱いと求めるものがあつたときにそれに対応できないとのことでした。

・感想

まず、今回の研修会に臨むにあたって研修会テーマである「動きとポジショニング」が適切なポジションをとれていないと感じていたため、動きのチャレンジをしてみようと考えて臨みました。結果的にはチャレンジをしてみましたが、適切なポジションには繋がっていませんでした。しかし、見える角度が変わったことで次のプレーへの視野の広がりがあり、動き出しの速さにはつながりました。今後は違う方法でチャレンジを行い、ポジショニングの方にも良い方向に繋がられるように努力していきます。



2017 クラブユース U-15 研修会 参加レポート 牧田隆史

○期間 2017年8月14日(月)～17日(金) ○場所 帯広市内、近郊

○テーマ 『動きとポジショニング～何が彼をそうさせるのか～』

…選手の意図・審判の意図を考える

○研修会を通しての感想と課題

今回の研修は『動きとポジショニング』がテーマでした。インストラクターの方々の講義を通して、争点を見る上で注意すべきこと、考慮すべきこと、ポジショニングの取り方などを学びました。その上で実際の試合で実践しようとしたのですが、たくさんの課題ができました。争点を見ようと近くまでは行くが細かいプレーに対しての気づきがなく、良い判定をすることができなかつたり、ひとつのミスで動揺し、その動揺を引きずり続けるということがありました。この課題を基に争点を見る角度をもう少し変えてみるなどの工夫をしていきたいと思ひます。さらに、ミスを犯したとしても動じない強い心を持つために、自分に自信を持てるようにしていきたいと思ひます。

今回の研修は全国研修であり、全国各地の2級審判員、女子1級審判員、さらにはPRである山本雄大さん、相楽亨さんと交流する機会があり、自分が今まで知らなかつたこと

などをたくさん聞くことができ、とても良い経験となりました。この経験を自分の地域に還元できるようにこれからも審判活動に努めていきたいと思えます。

○全体会

共有したい起こった事象⇒試合を規定の時間より早く終わらせてしまったときの対応

両チームの選手・スタッフに事情をしっかりと説明し毅然とした態度で再開するようにする
講義の内容

①PRの山本氏、相楽氏による講義 「重大な事象が起こったときにすべきこと」

- ・次に起こりそうな最悪の事態を予期しておく
- ・何があろうと競技規則に沿った判定をする
- ・一時的に逃れようと判定を変えない→変えてしまうと却って混乱を招いてしまう

②石山氏による講義 「動きとポジショニング」

- ・良いポジショニングを取るための主要な要素→高いレベルの身体的フィットネス
→ゲームを読む力

・ACB コンセプト

A An Angled view through the point of contact 争点を見極めるための**角度**

C Close (15~20m) **近さ**

B Referee-Ball-Assistant **ボール**を挟んで見る位置取り

- ・良い角度とは ボールとプレイヤーが重ならないような位置(=Xファクター)
近すぎず遠すぎないところから見る
1つの地点を集中して見すぎると他のものが見えなくなる

③羽矢氏による講義 「動きとポジショニング」

争点が視野に入っているのにプレーが見れない=**見えている**だけではダメ！！

⇒争点で起きている事象を**見に行く！！**

④黛氏による講義 「動きとポジショニングを判断するときに必要な情報」

- なぜ争点から遅れたのか
- ・攻守の切り替えへの反応
 - ・次のプレーの予測
- 次の位置取りを決めるための判断材料
- ・ボールホルダーの状況(フリーであるかなど)
 - ・他の競技者の位置と向き
 - ・受け手の動き
 - ・スペース
 - ・守備側競技者の位置と数
 - ・プレーの方向

⑤長岡氏による講義 「動きとポジショニングのイロハ」

ファウルが起ころう or ファウルが起きそうにない

↓

イ,**focus**

or

↓

ロ,**free**

↓

視野を広げて情報を集める・選ぶ

↓※重要な情報の優先順位をつける

ハ,動きとポジションを選ぶ **※自分に合わせた動き**

⇒試合の展開を読む・プレーの展開(**攻撃**)・ファウルが起きそうなところ(**守備**)

※サッカーの理解、チーム戦術や選手の特徴の把握、試合の意味合いや流れ、天候やピッチ状態などを頭に入れておく

- ・ファウルが起きそうな条件

1. 得点にかかわるエリア(ペナルティエリア内など)
2. ファウルが起きやすいエリア
 - i)ペナルティエリア付近
 - ii)アシスタントレフェリーがいない方のサイド(ホールディングが多い)
 - iii)ハーフウェーライン付近(カウンター妨害、ヘッ드의競り合いなど)
3. ファウルをしやすそうな選手

(エースキラー、直前にファウルされた選手、イライラした選手、途中出場した攻撃の選手など)
4. ファウルの起こりやすい選手

(センターフォワード、ゲームメーカー、ゴールキーパーなど)
5. ベンチ前



強化研修会で実施した競技テストの一部です。皆さんもお試しあれ!!

問2. 次の言葉について説明しなさい。 (×4 12点)

- (1) タックルする、または、挑む の「挑む」
- (2) 「セーブ」
- (3) ファウルのときの、「無謀」とは

問3. 主審はどのように処置しますか?(第13条再開場所は述べなくて良い) (×4 40点)

- (1) フィールドプレーヤーが、ハーフタイム中に主審の承認なくゴールキーパーと入れ替わって後半にプレーした。ボールがアウトオブプレーの時に主審はこのことに気がついた。
- (2) 試合中の得点後、プレーが再開される前に、得点があったときに得点したチームの交代要員がフィールド上にいた事に気がついた。
- (4) ドロップボールのとき、ボールがグラウンドに触れる前に、競技者が相手競技者の足を無謀に蹴った。
- (5) 人数を合わせて10人ずつで行うペナルティーマークからのキックのとき。キックの進行中3人目が終わったときに一方のチームのゴールキーパーがプレーを続けられなくなった。すでに競技会規定で定められた最大数の交代は完了していた。
- (6) 試合中のペナルティーキックのとき、主審の合図のあとに、キッカーが不正なフェイントを行いきックし、同時にゴールキーパーもラインから離れ飛び出した。ボールはゴールに入った。
- (8) キックオフからボールがキッカーのゴールに直接入った場合について。
- (9) 治療のためにフィールドの外に出ている競技者が、インプレー中にプレーの一貫でフィールドの外に出てきた競技者をトリップした。
- (10) ボールがインプレー中、守備側競技者が自分のペナルティーエリア内で、ボールにプレーしようと試みて攻撃側競技者をトリッピングして、相手の大きなチャンスとなる攻撃をとめた。